

公演予定



舞台芸術 日本の伝統美と 世界最古の 幽玄の世界に浸る 世界最古の

7.1 土	柿山伏 清水宗治 <small>狂言</small>	柿山伏 清水宗治 旅の途中、喉が渴いた山伏が柿の木を見つけて食べていると、柿の木の持主が見回りにやってきます。木陰に隠れた山伏を見つけた畠主が、素知らぬ顔であればは鳥だ、猿だ、というと、山伏はその鳴きまねをして…。	女
7.8 土	附子 中尾史生 <small>狂言</small>	附子 中尾史生 主人は太郎冠者と次郎冠者に附子を預け、「これは猛毒だから気を付けるように」と言って外出する。どうしても附子が気になる二人は、ついには附子を食べてしまうが…。	鬼
7.22 土	茶壺 野守 島村明宏 <small>狂言</small>	茶壺 野守 島村明宏 春日の里を訪れた山伏。そこからともなく現れた野守の老人は“野守の鏡”的謂れを語り、塚に消える。祈る山伏の前に大鏡を持った鬼が現れ、天井から地獄までの有様を見せるが、やがて大地を踏み破り去って行く。	鬼
7.29 土	蚊相撲 炭哲男 <small>狂言</small>	蚊相撲 炭哲男 新しい家来を雇うことにした大名は、太郎冠者に探してくるよう言います。冠者は街道で通りかかった男に声を掛けさっそく連れて帰ります。大名は喜び、その新参者の特技を訪ねると相撲だというので、大名自らが相撲の相手をとると…。	神
8.12 土	棒縛 能村晶人 <small>狂言</small>	棒縛 能村晶人 主人が留守にするたびに、太郎冠者と次郎冠者が酒を盗み飲みするので、ある日主人は太郎冠者の腕を棒にくりつけ、次郎冠者を後手に縛り上げてから外出します。残された二人は、なんとかこの不自由な格好で酒が飲めないかと知恵を働かせます。	神
8.19 土	蝉丸道行 大坪喜美雄 <small>狂言</small>	蝉丸道行 大坪喜美雄 都に商売へ向かう途中に出会った薑(山椒)売りと酢売り。薑売りが、自分に礼を尽さなければ商売をさせないと言って、薑の由緒正しさを語ります。酢売りも負けじと由緒を語るので、決着が着きません。さて、争いの意外な結末は…。	特別公演
8.26 土	鵜飼宝生 和英 <small>狂言</small> <small>宝生流二十代宗家がシテを務めます</small>	鵜飼宝生 和英 <small>宝生流二十代宗家がシテを務めます</small> 旅の僧達が石和川に赴くと、鵜飼いの老人が現われ、自分は殺生禁断の場所で鵜を使い、殺された亡者だと明かし、鵜使いの様を見せて消える。供養を行なう僧の前に地獄の鬼が現われ、法華経の功德を賛美する。	鬼
8.5 土	佐渡狐 能村晶人 <small>狂言</small>	佐渡狐 能村晶人 佐渡と越後の国の百姓が、領主に年貢を納めに行く途中で道連れになり、佐渡に狐がいるかないかの論争になります。二人はそれぞれの刀を賭け、役人の奏者に判定を頼むことになりますが、実は、狐を見たことの無い佐渡の百姓は、奏者に掛け合います。	女
8.26 土	羽衣 高橋右任 <small>狂言</small>	羽衣 高橋右任 漁夫の白竜が松に掛けてある美しい衣を見つけ、持ち帰ろうとすると、持ち主の天女が現れる。羽衣がないと天に帰れない咲く姿に心を動かされ、天人の舞を見せる条件に羽衣を返すと、天女は天に舞い昇り、次第に姿を消していく。	女
8.5 土	伯母ヶ酒 炭光太郎 <small>狂言</small>	伯母ヶ酒 炭光太郎 酒好きの甥は、酒屋を営む伯母のもとへたびたび酒をせがみに行きますが、伯母はけちで中々呑ませられません。今日もまた色々と口実をつけて酒にありつこうとするも、断られます。そこで甥は、最近この辺りに鬼が出ると言って伯母を脅したうえで、自らが鬼のふりをしますが…。	神
8.26 土	来殿 松田若子 <small>狂言</small>	来殿 松田若子 延暦寺の座主法性坊のもとに、かつての弟子、菅原道真の靈が現れ、無実の罪で果てた恨みを語る。道真の恨みにより扉は燃え上がるが、法性坊が酒水の印を結ぶと、炎は消え、道真の靈も姿を消す。すると、あたりに音楽が鳴り響き、天神が現れ、國土の安全を祝う。	神
8.26 土	因幡堂 炭哲男 <small>狂言</small>	因幡堂 炭哲男 大酒呑みの妻を持つ男が、妻の留守中に離縁状を送りつけ、新しい妻を得るために因幡堂の薬師へ妻乞いにいきます。薬師のお告げを聞いた男が、早速新しい妻に会えるという場所へ行くと、そこには女性が一人立っていて…。	男
8.26 土	忠度 蔡克徳 <small>狂言</small>	忠度 蔡克徳 旅の僧が須磨の浦で老人に会う。老人は平忠度ゆかりの桜の木の下で、その事を頼んで姿を消す。やがて忠度の靈が昔の姿で現れ、自分の歌が「詠み人知らず」とされた事への執心を語り、命を落とした合戦の様子を再現して消える。	忠度

能楽とは What's Nohgaku?

「能楽」は、継承されている演劇としては「世界最古」といわれる日本独自の舞台芸術で、「能」と「狂言」からなります。日本で最初にユネスコ(世界無形文化遺産)に登録された世界が認める伝統芸能です。「能」では、笛や鼓による演奏と地謡と呼ばれるコーラス隊の謡にあわせて舞台上の人物が舞いながら物語を展開します。一方「狂言」は、庶民の日常生活を題材とした喜劇であり、会話を中心に物語が展開します。

加賀宝生 Kaga Hoshō

江戸時代、能は幕府の式楽となり、各地の藩でも能が盛んになりました。加賀藩前田家は能の宝生流(5流派の1つ)を手厚く保護・育成し、庶民にも広く推奨したことから、今では金沢といえど「加賀宝生」と言われるほど、独自の発展を遂げています。

石川県立能楽堂

Ishikawa Prefectural Noh Theater

能楽文化の保存・継承及び振興の拠点として、昭和47年全国初の独立した公立能楽堂として開館し、昨年50周年を迎えました。能舞台は、昭和7年に建てられた金沢能楽堂本舞台を移築したもので、国の有形文化財に登録されています。

石川県立能楽堂ホームページ
<https://noh-theater.jp/>



おばがさけ
狂言 伯母ヶ酒 炭光太郎
酒好きの甥は、酒屋を営む伯母のもとへたびたび酒をせがみに行きますが、伯母はけちで中々呑ませられません。今日もまた色々と口実をつけて酒にありつこうとするも、断られます。そこで甥は、最近この辺りに鬼が出ると言って伯母を脅したうえで、自らが鬼のふりをしますが…。

おでん
狂言 来殿 松田若子
延暦寺の座主法性坊のもとに、かつての弟子、菅原道真の靈が現れ、無実の罪で果てた恨みを語る。道真の恨みにより扉は燃え上がるが、法性坊が酒水の印を結ぶと、炎は消え、道真の靈も姿を消す。すると、あたりに音楽が鳴り響き、天神が現れ、國土の安全を祝う。

いなほどう
狂言 因幡堂 炭哲男
大酒呑みの妻を持つ男が、妻の留守中に離縁状を送りつけ、新しい妻を得るために因幡堂の薬師へ妻乞いにいきます。薬師のお告げを聞いた男が、早速新しい妻に会えるという場所へ行くと、そこには女性が一人立っていて…。

ただのり
狂言 忠度 蔡克徳
旅の僧が須磨の浦で老人に会う。老人は平忠度ゆかりの桜の木の下で、その事を頼んで姿を消す。やがて忠度の靈が昔の姿で現れ、自分の歌が「詠み人知らず」とされた事への執心を語り、命を落とした合戦の様子を再現して消える。

◆ [神・男・女・狂]はジャンルを記しています。ジャンルについての説明をご覗ください。